

注目ポイント！

大和ミュージアムの集客力と、「大和」の背景となる歴史全体で観光地づくりを推進。



総観光客数が約227万人から約468万人に！
(平成15年) (平成17年)



瀬戸内海の多島美

コラム

大和ブームに沸く呉市の観光スポットを無料ガイドする「呉観光ボランティアの会」会長。平成12年の会発足時から会長を務める。大和ミュージアムの開館以降、会への案内依頼が急増しており、新メンバーを加えるなど、案内態勢の充実を図っている。市や合併町の観光ボランティアとも連携し、市全体で訪れる観光客を「もてなしの心」で支える。会長 山元 利成氏



これまでの経緯

- 平成12年(2000) 呉観光ボランティアの会を設立。
- 平成13年(2001) まちかど観光案内所開設。
ボンネットバスツアー(ふるさと再発見ツアー)運行開始。
- 平成14年(2002) 呉市の夜の名物「蔵本通りの屋台」充実の為、新規出店募集(7軒 15軒)。
- 平成15年(2003) 呉地域フィルムコミッション設立。
韓国インバウンド事業開始。
観光客誘致手法の検討。(呉地域観光振興推進懇話会)
- 平成16年(2004) 観光ホームページ・携帯観光ナビ開設。
観光タクシー(旅タクシー)の運行開始。
観光客用駐車場を整備。
- 平成17年(2005) 瀬戸内海を共有する近隣8町との合併が成就し、新生呉市がスタート。
呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」開館。
この年を「観光元年」と位置づけ、観光キャッチフレーズ「海色の歴史回廊 くれ」を制定。
くれ観光情報プラザ開設。
- 平成18年(2006) 「優秀観光地づくり賞」(社)日本観光協会会長賞受賞。
「大和のふるさと呉にきんさい！キャンペーン」を展開。

当該地域は「わたしの旅100選」(平成17年)の特別賞として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」

平成17年4月オープン。日本の近代化の歴史そのものといえる「呉の歴史」と造船、製鋼をはじめとした各種の「科学技術」を先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介。館内では市民ボランティアスタッフがガイドを務め、地域全体で館の運営を支える。平和や科学の学習素材として、近隣の体験学習施設等と連携し、教育旅行の誘致にも取り組む。



10分の1戦艦「大和」

二次交通等の整備

大和ミュージアムを核とした滞在型観光を促進するため、周辺に点在する観光資源を結ぶループバスの運行や、昔なつかしのボンネットバスで巡るルートツアーの実施、瀬戸内海を活用したクルーズ船の運航など、観光地のネットワーク化を推進。



ボンネットバス



クルーズ船の運航

フィルムコミッションによる情報発信

映画・テレビ等の撮影を誘致し、映像を通じて地域イメージの発信、観光客誘致に取り組む。

映画「海猿」や「男たちの大和」のロケ地マップを作成し、全国へ情報発信。



「男たちの大和」ロケ風景

ボランティアガイドによる観光案内

呉市のエリアごとに4つの市民ボランティア団体が対応。大和ミュージアム開館以降、増加する観光客に対応するため、官民一体となって「養成講座」等を開催し、新たなボランティアの育成に努めるなど、地域をあげて受入れ態勢を充実。



ボランティアガイド

問い合わせ先

呉市観光振興課

Tel : 0823 - 25 - 3309

<http://www.kurenavi.jp>